

子供と言葉の出会いに関する国際比較研究 ——イギリスと日本における「辞書引き学習」の導入事例を中心に——

深谷 圭助*

Children and Their Exposure to New Words: Case Study of “Jishobiki” from United Kingdom and Japan

FUKAYA Keisuke

要 約

本研究の目的は、子供に語彙を理解させ語彙を拡張させるために、日本の辞書指導法の一つである「辞書引き学習法」を異なる教育的文脈を持つ国に導入した場合、どのような成果と課題が得られるのかを、イギリスの小学校における導入事例を分析することを通して明らかにすることである。本研究によってイギリスの教員の指導観（教材観、児童観）と日本の教員の指導観（教材観、児童観）の違いが明確にされた。まず、①日本の教員の指導が、各教科の指導計画、授業における主導的な立場に拘束されていること、②それ故に「辞書引き学習法」に対して期待する点が子供の主体性の発揮にあるということ。一方、イギリスの教員の指導は、①児童の能力観を基盤として、授業での指導が展開されていること、そして、②小学校の英語指導では特にSpelling指導の問題が、最も困難な問題と考えられており、その克服のための指導法として「辞書引き学習法」への期待が大きいことが明らかにされた。

キーワード：辞典指導、語彙学習、辞書引き学習、イギリス初等教育

1. 研究の目的

本研究の目的は、子供に効果的に語彙と出会わせ、語彙を修得させるために、語彙力向上と継続的な学習習慣の形成のための辞典指導である「辞書引き学習法」の導入を異なる教育的文脈下にあるイギリスで行った場合、どのような成果と課題があらわれるのかについて、イギリスの小学校で実践し、言語文化、教師文化の側面から実証的に検討することである。なお、「辞書引き学習法」とは、「知っている言葉を見つけて（辞書に）付箋を付けていくことによって、子供たちが言葉の世界に興味を持ち言葉に対する認識が深まり、その結果、日本語力（言語力）が身に付く¹⁾」学習手法である。2000年代から日本の

学校教育や家庭教育²⁾で、2010年以降は海外においても紹介されている学習法である³⁾。海外では、以下の様に紹介されている。“Jishobiki is one of the effective learning approaches of literacy education, especially in promoting reading and writing skills as well as prompting academic competence and literacy in school.⁴⁾”

2. 問題の所在

1990年代以降、国や地域の子供の学力を国際学力調査によって明らかにし、教育改革の根拠としようとする動きが具体化するようになった。この動きと連動して、能力観、教育評価、そして授業改善のあり方が国際的に議論されるようになった。

日本の伝統的な教師文化である「授業研究」は、

* 中部大学現代教育学部現代教育学科

1990年代から、Lesson Studyとして注目され、国際的な授業改善のためのアプローチとして認識されるようになった。そのきっかけになったのが、1991年のスティグラー (Stigler, J. W.)、ステイブンスン (Stevenson, H. W.) による『ラーニング・ギャップ (Learning Gap)』の刊行⁵⁾、そして1999年、スティグラー、ヒーバート (Hiebert) による『ティーチング・ギャップ (Teaching Gap)』の出版⁶⁾とされている。彼らがアメリカと日本の学力差の原因の一つとして「授業研究」の存在を指摘したことで、日本の「授業研究」が世界から注目を集めた。これらの動向は、世界の授業改善へのアプローチに大きな影響を与えた⁷⁾。

アメリカでは1990年代にこの問題と呼応しつつ、「教育スタンダード」化現象が進行した。もともとアメリカにはナショナルカリキュラムは存在せず、初等教育の目標、内容の規定は、各州の裁量となっていた。それが、ジョージ・H. W. ブッシュ政権下において、1991年に「全米共通教育目標」の達成戦略として、全米の教育内容や学力の規準となる「教育スタンダード」の策定を目指すこととなり、「2000年のアメリカ」が発表された。さらに、1994年、クリントン政権下において、「2000年の目標：アメリカ教育法」が策定され、アメリカの教員すべてが、継続的な職能向上を目指し、児童生徒の指導に必要な能力を開発するための教育研修の機会を持つことと定められた。このことが、各州の教育改革の基本方針となった。

また、イギリスでは、1988年の教育改革法により、ナショナルカリキュラムが導入され、1994年、1999年の改訂を経て、2014年に3年生以上の外国語（英語以外）の必修化とコンピュータ教育の導入が図られた。また、学校監査を行う教育水準局 (OFSTED) は2015年から新たな監査の枠組みを導入し、その監査の結果をインターネットで公開している。イギリスもまた授業改善や子供の学力向上をめざした授業づくりへの教師、保護者の関心は高まっている。

こうした国際的な動向を踏まえ、学校の教育力向上の為の授業研究を国際的に展開、発展させていくためには、先述の国際的な学力評価、リテラシー概念の浸透と教育規準の共有化、それに対応した評価

設計、そして教育内容の策定の具体化が必要であり、PISA等が示すリテラシー概念に基づいた、教育内容の共有化を図る必要がある⁸⁾。

そこで、日本で開発された、読解リテラシー形成における言語スキル学習法である「辞書引き学習法」の海外移転・導入を通して、イギリスの教員が授業研究を通してどのように受容し、どのような教師文化、学校文化の同質性、異質性が存在するのかを明らかにしたいと考える。イギリスには日本と同様に小学生向けの学習辞典が豊富にそろっており、辞典指導に関して関心が高い。具体的には、辞書を活用する学習法として「辞書引き学習法」を移転することで、どのように子供は語彙と出会い、語彙を習得し活用することが望ましいのかについて、イギリスの小学校と日本の小学校で同一モデルの教育実践を展開する。ピート・ダドレー (Peter Dodley) が運営する、Lesson Study UK (<http://kessonstudy.co.jp>) で公開されている「授業研究ハンドブック (Lesson Study : a handbook)」を教員に紹介し、その手順に従って「辞書引き学習法」の導入とその教育効果の検証を行う。

3. 「辞書引き学習」とは何か

ここで、海外移転する日本型教育モデル「辞書引き学習」について説明しておく。「辞書引き学習」は、筆者が日本の小学校において、1990年代に開発した辞書を教材とした学習法である。この学習法について、小学館国語辞典編集部編『大辞泉』（第2版、小学館、2012年）では次のように説明されている。

辞書で引いた言葉を付箋に書いて、該当ページに貼っていく学習法。教育学者の深谷圭助が愛知県の公立小学校教諭時代に発案し授業で実践した。辞書を引いただけ付箋の数が増えるので成果が実感でき、子供はゲーム感覚で辞書を引く習慣を身につけることができることから、全国的な広まりを見せている。語彙の数を増すだけでなく、子供が自発的に学習する意欲を引き出す効果も期待されている⁹⁾

この学習法の特色は二つある。一つは、辞書を引く際に、未知の語だけでなく、既知の語も辞書を引

く対象の語として認めるということである。もう一つは、辞書を引いた際、見つけ出した語が掲載されている頁の余白に、通し番号を付し語を書き写した付箋紙を貼るということである。この学習法の実践により、児童の辞書を活用する意欲が高まり、辞書を活用する機会が増えたこと、そして、その結果として語彙が広がり、語彙の理解が深まることが明らかにされた。筆者はこの学習法の開発に1994年に着手し、1998年に論文と著書で発表をしている¹⁰⁾。また、2006年に刊行された、拙著『7歳から辞書を引いて頭を鍛える』（すばる舎、2007年）で一般に知られるようになり、現在もこの学習法の関連書籍が刊行されている¹¹⁾。この「辞書引き学習法」が学校や家庭で受容された背景には、これまでの、辞書の引き方を教えることを中心とした辞典の指導では、十分に成果が上げられていなかったことが挙げられる。辞書の引き方を教えることが、必ずしも、子供の語彙への理解を深め、広く語彙を獲得することに繋がっていなかった。辞書指導が、辞書の引き方指導に限定されているという問題は、日本だけの問題ではなく、諸外国においても同様である。子供の語彙の理解や語彙の拡張に対して、辞書指導の問題は、諸外国と問題を共有しているのではないか。本研究では、イギリスにおいて日本で開発された「辞書引き学習」を移転導入した場合、語彙の理解や拡張に関して、どのような受け止め方の差異が見られるのかを検討することにする。

4. 「辞書引き学習」を海外導入した事例（イギリスの場合）

(1) Castlemorton CE Primary Schoolにおける日本型教育モデル「辞書引き学習」導入の概要

イギリスのCastlemorton CE Primary Schoolにおいて取り組まれた辞書引き学習法の実践研究では、Year3からYear6までの児童がこの取り組みに参加している。2017年3月15日に導入授業を同校で筆者が行い、約3か月間に亘って辞書引き学習法の実践を行った。

研究実践の効果検証のため、2016-2017年度Castlemorton CE Primary School、Year 3.4の複式学級担任であるショーン カッファークー（Sian

Cafferjey）教諭に対して、「辞書引き学習法」の実践検証に関わるインタビューを、2017年9月6日に収録し、逐語記録を作成した。これを分析する。

(2) Castlemorton CE Primary School、Sian Cafferjey教諭に対するインタビュー

Sian Cafferjey教諭による3か月間に亘る「辞書引き学習」実践に関わるインタビューを逐語記録として、日本語に翻訳したものが以下の資料である。質問した内容としては、①全般的な感想、②導入のプロセス、③短期的メリット、長期的メリット、④導入にあたっての児童観・教材観の4つの点についてである。なお、Iはインタビューアー、SはSian教諭、JはJanet校長を指す。

①「辞書引き学習」を導入して感じたこと

I1： 辞書引き学習についてどう思いましたか？

S1： 最初、私はこの方法に対して懐疑的でした。辞書引き学習はうまくいかないだろうと思いました。子供たちは、辞書引き学習は好きではないだろうと。でも、子供たちは辞書引き学習が好きでした。

子供たちは本当に熱狂的でした。

子供たちは、突然考えました。「辞書とその面白いことができる」と。

私が子供の頃、『リーダーズダイジェスト』という小冊子がありました。そこには「あなたの言葉の力を増やす」とあります。そして、私は辞書を使って新しい言葉を見つけて辞書を検索するのが大好きでしたし、子供たちは以前に辞書を持っていませんでした。

しかし、辞書を用いて、子供たちに新しい言葉を見つけてもらいたいのです。

競争は本当にね... 子供たちは競争が大好きです。「私の友人よりも多くの言葉を手に入れることができますか？」「私は最初の1000枚を達成することができますか？」「私自身の文章でその言葉を使うことはできますか？」

教師の視点からみて、そのことは素晴らしいことです。私は、子供を信じる人ではありませんでしたが、子供は天才です。

I2： いい機会でした。

S2： すばらしいです。あなたのよりレベルの高い子供たちは、常にそのような何かを取ってそれと一緒にいき、見事だと思うでしょう。英語に苦労している子供たちがそれを好きになるとは私は思っていませんでした。しかし、彼らのペースでそれをしたので、英語に苦労している子供たちもそれが好きになりました。そして彼らは彼らのレベルで辞書引き学習を行うことができたので、誰もが立派に参加しました。それは素晴らしいことです。

②「辞書引き学習」をどのように導入したのか

I3: 辞書引き学習の実践の経過、3月、4月、6月、7月の経過を知りたいのですが。

S3: 順調ですね。授業の後で、子供たちは辞書を持ってきて一週間、辞書引き学習をしました。子供たちは、どこでも辞書引き学習をやっていました。いつも子供は学校のいたる所で辞書引き学習をしていました。遊び時間、校舎の外でもしていました。彼らは非常に意欲的でした。

熱中していました。「何があなたたちをそうさせるの?」「付箋は何枚貼ったの?」「どのあたりにいるの?」私たちは、クラスでちょっとした辞書引きの競争があることを見ました。「あなたは500に上がることができますか?」「あなたは1000に上がることができますか?」彼らがそれをやりたいと思っていた度に、私たちは彼らにそれをするインセンティブを与えました。

それはちょっと拾い読みするようなものです。もしあなたが毎日、拾い読み(辞書引き)をしないのなら、私の授業は、朝に30分読書をしています。グループの1人が読書を終えたら、彼らは辞書を手に入れることができます。彼らは本を読み終えても、いつも新しい本を読み始めることを望んでいません。彼らはごく当たり前のように自分で辞書を手に入れて辞書引きをします。「ああ、私の辞書を手に入った」と。

私は、私たちが辞書引き学習に挑戦してきた辞書を使って、1~2回授業をしました。「すぐに単語を見つけることができますか?」「あなたはこれらの文字列で始まる単語を見つけることができますか?」「あなたは、世界で、これらの文字をもつ単語を見つけることができますか?」

それで、実際に使っているかどうかを確認するのに役立ちます。数字を書くだけではありません。一週間に一度、週に1回、スペリングの授業や文法の一部として辞書に焦点を合わせた授業があり、それは本当にうまくいっています。

I4: 一週間に一度?

S4: 週に1回。特別な時間を持っていますが、その週には辞書を使う機会があります。彼らがそれを使用するように、辞書を机の上に置くことを英文読解の授業で推奨します。

そして、「あなたがあなたの辞書でその言葉を見付けたら、あなたは新しい言葉を学んだことになるので、あなたの辞書に付箋を加えることができる」と私たちはそのように奨励しています。それは本当にうまくいっています。

③「辞書引き学習」の短期的利点とは何か

I5: 辞書引き学習の短期的なメリットは何だと思いますか?

S5: 短期間では、言語に対する好奇心。子供のために権限を与えることの意義ですね。子供たちは言葉について私に尋ねる必要はありません。子供たちは自分自身で言葉の意味を見つけることができます。子供たちは辞

書を手に入れて、単語を見つけたら、その言葉を知っていると言うことができます。「Ms Caffejey」と言うのではなく、「どのように綴りますか?」「この言葉は何を意味していますか?」。子供たちはすぐに辞書に行き、私に尋ねる前にまず辞書を使います。子供たちは独立して学んでいるので素晴らしいです。彼らが辞書で新しい言葉を学ぶことができることを知っています。英語では、私たちが利用できる何千もの言葉のごく一部しか使用していません。ほとんどの人にとって、私たちが毎日使っている1000の言葉を覚えていくようです。私たちが話すことができる方法がずっとあり、私たちが使うことができるより多くの語彙があります。彼らは彼らが言うことを拡大するように促すだけです。そして、時には、遊び場でそれらを聞くとかなり興味深いものです。彼らは突然新しい言葉を出すでしょう。どういう意味ですか? 彼らはその言葉を見つけるために入ってきます。

④「辞書引き学習」の長期的利点とは何か

I6: 長期的なメリットはどうですか?

S6: 長期的に、私は辞書引き学習が子供たちのスペリングを改善するのに役立つと期待しています。英語のスペリングは非常に難しいです。あなたがスペリングの規則を学ぶたびに、あなたが遭遇するすべての言葉は、スペリングの規則を遵守しません。少なくともこのようにして、子供たちは言葉のつながりを見始めています。辞書引き学習が、組織化され、語根で始まり、語根の単語に展開します。彼らはスペリングのパターンを理解し始めています。私は彼らが言葉の綴り方を知らないとき、彼らは、より良い(類語の)選択肢とより良い推測をしていると思います。彼らは彼らが見つけたものを使用しています。彼らを助けるためにもっと勉強しています。複式学級の中の下の子供たちは、彼らが始めたときに若かったので、もっと見えています。私は、今年、うまくいけば、彼らのスペリングがさらに改善されるはずだと思います。私たちは辞書引き学習を続けなければなりません。

I7: 通常、この学校のスペリングをどうやって鍛えますか?

S7: 私たちはスペリングのルールを教えています。

おそらく、1週間に1つのスペリングのルールまたは2つのスペリングのルールを教えます。そして、私たちはいつも、10綴り、10語を学習するように宿題を出しています。子供たちは、テストで出るそれらの言葉を学び、その後、スペリングを忘れてしまいます。子供たちは、スペリングがとても難しいので、記憶することができません。親は「私の子供が綴ることができる。うちの子供は10のうち10を取得します」と両親が言うからです。

子供たちは多くの言葉を使いません。子供たちは、ちょうど言葉を学んでいる最中です。あなたがどうかは知りませんが、私が書く時、もしある言葉に出くわしたとしたら、私はスペリングできないし、別の言葉に置き換えることも難しいでしょう。何故ならそれは辞書

を引くことよりも容易だからです。

しかし、子供たちは、今では、こう考えていると思います。“私はそれを調べようとする言葉については、定かではありません”と。子供たちが、スベリングやその言葉に代わる言葉の選択において、もっと冒険することを願います。

⑤「辞書引き学習法」導入にみられる児童観

S8: Cを覚えていますか？ 背の高い男の子の長い髪
彼は英語がとても悪いです。とてもとても不十分です。かろうじて書くことができます。そして彼は辞書を見て、「ああ私はその言葉を知っていることを知っています」彼はそれから数え始め、「私は50語を知っています！そして、次の日に彼は来て、「ほくは50語しか知らなかったと思ったけど、今は70語を知っているんだよ」

そして、実際、彼が自分の語彙がどれほど良いかを認識していませんでした。彼は必ずしも正しい言葉を綴ることはできませんが、その言葉は知っているのです。そして、彼がその言葉を読むとき、彼は彼が言葉を知っていると言うことができます。私にとって、Cのような子がどれほど素晴らしいかを理解することは本人にとっても大きな助けとなります。

S9: 彼は小学校の終わりにどのレベルにいる必要があるか決して一致をみることはありません。彼はそれほど進歩しているわけではありませんが、彼は彼自身が思っているよりもずっと優れています。彼はいつも書く力と読む力はあまり良いとは思っていません。彼は自分が思っているよりも優れています。何人かの子供たちは自分ができない自分は今までやったことがないからできないと思っています。

それで、Cにとっても、かなりそんな感じでしたが、今では、辞書引き学習に頑張っていて取り組んでいます。辞書を自分の力で利用しています。彼が私のTAに頼る前に、私の教室の助手は、彼のためにそれを書いて、それを書き留めていたからです。彼はコピーしますが、今は彼が試している方がはるかに優れています。

私は、Cが私の担任をしている最低の能力の子供であること、そして、私の最も能力の低い子供であると言えます。しかし、Mのような子供もいます。Mもまた5年生です。彼は非常に高いレベルで書くことができます。彼にとって辞書引き学習が良かったことは、彼が理解できなかった言葉、彼が知らなかった言葉を実現できたことでした。

実際、彼はそのことを心配していませんでした。それは、彼にその言葉を学ぶ機会に過ぎなかった。それで、私はそれが両方上手いくとは思っていませんでした。何故なら、あなたは教授で、私はそうではありませんから。

I8: 彼のために、この辞書引き学習はとても効果的だったのですか？

S9: CとMの両方に効果的でした。できない子供には、自信を持ちなさい、貴方はもっと言葉を知っているはずだよと伝えています。

より高い能力のために、それは彼らが言うように伸びています。私たちは、比較的少数の言葉しか持たないスクールディクショナリーを持っています。ですから、彼らはもっと大きな辞書に入って欲しいので、彼は大きな学生の辞書を使いたいと思っていました。実際に非常に長い語彙を学ぶことができるので、Mにとっては問題ありません。彼は挑戦が好きです。ですから、できる子供にもあまりできない子供に対しても辞書引き学習は双方の子供に有効でした。これは素晴らしいことです。

S10: 彼のエピソードは、は非常に良いエピソードです。このアプローチは、それぞれの発達段階で非常に効果的だと思います。Cはそれほど高いレベルではありませんが、彼は「ジショビキ」に非常に興味があり、語彙の能力と自信を広げています。

親も驚いています。多くの両親が来て、「ああ、これは何？ 私たちは自宅ですべきことがもう一つある」と言います。「そう、あなたの子供たちは興味を持っている」と言っています。子供たちが戻ってきて、保護者は「私は、信じられないのです。今晚、子供たちが辞書を持ってきて座り、1時間30分今晚1時間半、辞書引き学習をしていました」。なぜなら、今や子供たちの周りにはたくさんのものが満ち溢れているのです。

1970年代には3つのテレビチャンネルがあり、DVDやビデオはありませんでした。読書以外には、たくさんのすることはありませんでした。

今日、彼らには、できることがたくさんあります。なぜ、あなたは座って辞書引き学習をしているのでしょうか？それは、子供たちは辞書を愛しているからです。辞書引き学習を子供たちは絶対的に愛しています。

そして、彼らはJ校長のお母さんが作った小さな辞書専用バッグが大好きです。とてもかわいい辞書専用バッグです。

J1: Mはまたスペイン語を勉強しました

S11: それは私を驚かさないでしょう。

J2: 彼はこの方法をスペイン語に適用しました。賢いです。

S12: すばらしいです。彼はそれを適用できる他のものとの関係を作ります。それを科学等すべて教師なしで本当に助けます。

I9: 彼は賢いですね。

S13: はい。とても賢いです。ずば抜けています。

I10: 5年生？ 同じ学年ですか？

S14: 5年生。

I11: 彼は、自らの学習スキルを自らの手で開発しているのだと思います。

S15: そうです。私はそれがMだと思います。彼は今、高校に向かう途中でこれを取るでしょう。彼の両親は非常に学業的です。だから私は彼がそれを続けるように励まされると思う。そう、彼はそれらのリンクをととても簡単に作っています。Mは彼の年を超えて賢明なのです。

5. 「辞書引き学習」を国内導入した事例（日本の場合）

（1）N市立S小学校における日本型教育モデル「辞書引き学習」導入の概要

日本のN市立S小学校では、2013年10月から2015年3月まで、小学校1年生から6年生までの全クラスで「辞書引き学習」を導入し実践研究を行った。ここで研究実践のリーダーであった教務主任Y教諭のインタビューの逐語記録を示し、Sian Cafferjey教諭のインタビューの逐語記録と比較・分析を試みる。インタビューは、2017年9月18日に収録されたものである。

（2）N市立S小学校、Y教諭に対するインタビュー

なお、Iはインタビューアー、YはY教諭を指す。

①「辞書引き学習」の短期的な効果とは何か

- I1: Y先生がお感じになられた効果とか成果ですね。えー短期的な効果とか成果はどんなものがあったのでしょうか？
- Y1: 子供が言葉に関心を持つようになって、話し言葉の中でも、使ってみたい言葉、使っては嫌な言葉を意識するようになりました。
- I2: 他にはありませんか？
- Y2: 読み取りなどの言葉で分からない言葉があるとすぐに調べてより深く心情を読み取ったり、情景を読み取ったりするようなこともよく見られました。
- I3: それは国語の授業だけですか？
- Y3: えっと、算数だと、例えば、「端（はした）」という言葉は子供たちが調べたくなった言葉、そんな感じで各教科、子供たちが分からない言葉があると、手にとってすぐ調べるといった姿が見られるようになりました。
- I4: 算数の言葉、もう一度お願いします。「はした？」。
- Y4: 「は・し・た」1メートルと30センチ、1.3メートルなんですけど、その30センチを1メートルにカウントできない。「はした」という言葉で、教科書に出てきます。
- I5: あ「はした」ね。なるほど、なるほど。算数のテキストの中にも難物の言葉があるわけですね。
- Y5: そうです。算数でしかでてこない言葉ですね。
- I6: 「はした」なるほど。わかりました。他にはどうでしょうか？ 短期的といいますと。
- Y6: 子供たちが、辞書を好きになって、「読書の時間」に毎週木曜日、朝、「読書タイム」があるんですけど、「読書タイム」の時間に辞書を読むという子供たちがとても増えておりました。
- I7: それは、付箋の枚数を増やしたいからということなん

でしょうか？

- Y7: まあ、中にはそんな子もありますが、付箋を貼った言葉に対して、用法であるとか、言葉の意味であるとかをもう少し詳しく知りたいというように、読み込む？子が出てきます。
- I8: 高学年の辞書の使い方と低学年の辞書の使い方の特徴はありましたか？
- Y8: 学年が上がるにつれて、いろんな教科での辞書の教材としての価値が上がっていたと思います。低学年ほど、国語の教科書とか簡単な身の回りの言葉、生活の中の言葉が、高学年では教科の分からない言葉を引くことが多かったと思います。

②「辞書引き学習」の長期的な効果とは何か

- I9: では、長期的に見て、辞書引きはどのような子供に価値をもたらすものなのでしょうか？
- Y9: 難しい質問ですが……基本、子供たちって、じっくり座って夢中になって何かに取り組むというのは、よっぽど好きじゃないとやりません。すぐに飽きてしまうというのが子供の、よくある姿なのですが、辞書に関しては、毎回新しい発見や友達を知っているのだけれども自分は知らないといった、友達とのコミュニケーションの中で知りたくなったことがいろいろ満載なので、子供たちが夢中になって言葉の学びを深めていくというかすすめていく。それっていうのはこれから子供たちが成長していく上で、言葉の価値というものが非常に基本となって大事になる部分じゃないのかなと思います。
- Y10: 本校は、国語辞典の他にも漢字辞典も一人一冊持ちましたので、漢字辞典も子供たちにとっては興味深いものになりました。国語辞典は言葉を知りたいときに、すぐ引いたものなのですけど、漢字の意味が知りたいとか、細かい読みとか書き順とか画数とか部首？とかそういったものを知りたいなっていうときに、非常に役立っております。中でも漢字辞典を使っていて、分からない言葉が出てきたときに国語辞典を合わせて引くというようなことがよくありました。
- I10: 漢字辞典を使うことが面倒だとか煩わしいという子供はいませんでしたか？
- Y11: んーとー、一人一人に聞いたわけではないので、まあ、何とも言えませんが、煩わしいというよりは、即座にいろんな情報が一つの漢字について知ることができるという意味では、あっち開いたり、こっち開いたりなくていいので、子供たちにとっては、貴重な漢字辞典だったと思います。
- Y12: 各教科で、漢字辞典や国語辞典はどの単元においても活用できる教材として有効だと思います。国語ではもちろん、算数なんかでは、例えば、小数の学習をします。その小数の学習の教材として、日本でいうと「厘」とか「分」とか昔の単位など、今使われていない漢字なども子供たちは漢字辞典で調べたり、その際の意味を国語辞典で調べたりすること。あと社会だと、需要と供給などの難しい言葉などが出てきたときにすぐさまそれを国語辞典で調べる。難しい漢字なので、漢字の意味から考えたいという意味で、国語辞典で調べる子などがおりました。

③「辞書引き学習法」導入にみられる日本人教師の児童観

Y13：子供というのは、疑問に思ったときに、その答えを知りたいという気持ちが非常に強いようです。大人の私たちが、聞かれてすぐにその言葉の的確な意味だったり、漢字の成り立ちだったりを答えてあげれば一番いいのかもしれないけれど、なかなか大人の私たちが子供にきちっと教えられるだけの力量が備わっていないような気がします。いつでもどこでも子供たちが知りたいときに知ることができる、という意味では宝の宝庫なのだろうと思います。

I11：この辞書引き学習を全校で取り組むにあたって、先生方のご理解、先生方にご理解いただく。先生方がもつ、従来の辞書への観念を取り除くために苦労された点はありますか？

Y14：多忙極まる担任の先生たちにとって、計画をした勝負の時間です。その中で言葉一つ一つが分からないから調べようという子供たちの気持ちはある意味大変な時間を費やしてしまうという先生方の声がありました。

6. 考察

日本とイギリスで同一教育モデルを実践し、各実践者に対するインタビュー、逐語記録の比較・分析を行った結果、以下のことが明らかになった。

(1) 辞書引き学習法の「導入期から展開期」について

	導入期	展開期
イギリス	・導入授業の後、1週間、様々な場面で取り組む（授業中、遊び時間）	・週に1回スペリングや文法の授業の一部で辞書に焦点を合わせた授業。それに加えて一週間を通して机の上に辞書を置いて辞書を使うことを推奨している。 ・インセンティブを与える。 ・朝「30分間読書」で取り組む。

まず、「辞書引き学習法」の導入と展開についてである。教育課程にない教育モデルの導入に関しては、それぞれの既存の教育システムに適応するように設計するのが普通である。日本で「辞書引き学習」を導入する場合、教師の責任の範囲内の「各教科の

授業中に扱うこと」が多く、イギリスの場合は、授業内外の多様な場面で取り扱っている。日本よりもイギリスの方が、教員の裁量が大きいと考えられる。イギリスの教育的文脈における「辞書引き学習」による教育効果は、主に「スペリングの能力向上」と見られており、英語の授業のうち、週1回は辞書に関連付けた授業内容としている。

また、学習成果に対するインセンティブについてはイギリスの方が積極的に受け止めている。導入期において、日本では、国語を中心とした各教科の授業の中で辞書引き学習に取り組んでいたが、イギリスでは、授業内外で、辞書を楽しみとして使うことから始め、親しんできたなら、英語のスペリングや文法の授業、そしてインセンティブを与えながら、教科外でも引き続き積極的に行わせていたことが分かる。イギリスと日本とでは、目的の置き方が異なるのである。

(2) 辞書引き学習法の「短期的効果」と「長期的効果」

次にイギリスの教師が感じた辞書引き学習法の「短期的効果」と「長期的効果」についての比較である。

	辞書引き学習の「短期的効果」	辞書引き学習の「長期的効果」
日本	国語文学教材の読解に有効である。 各教科の語彙に対する関心が高まる。	主体的な言葉の学びを深化させる。 夢中になって学び続けるようになる。
イギリス	言葉に対する好奇心や子供の主体性を育てる。	英語学習において、正しいスペリングが修得できる。 類語に対する関心が高まる。

日本の場合、「辞書引き学習」の短期的な効果として、まず「国語の文学的教材の読解」における効果、そして、「算数等の各教科における語彙への関心」をあげる¹²⁾。そして、長期的な効果として、「辞書を用いての学習習慣や主体的な学習姿勢」を期待する傾向がある。それに対して、イギリスの教師でのとらえ方は逆で、短期的効果として、「子供の言葉に対する好奇心や主体性」を挙げ、長期的な効果として、「スペリングの能力に対する効果」を挙げ

ている。最終的な教育実践上の目的を、日本では、「学習態度養成」に置き、イギリスでは、「語彙能力深化と拡張」に置いていることが分かる。日本の教師は、各教科等のカリキュラムや授業進行に対して縛られるが、その重点は子供の学習へのモチベーションの向上である。それに対して、イギリスの教師はあくまでも、語彙力向上のためのカリキュラム、授業であり、その取扱は弾力的である。イギリスの教師にとって、意欲は能力獲得のための「道具」なのである。

(3) 辞書引き学習法導入の際にみられる「指導観」、「児童観」、「教材観」

最後に、辞書引き学習法の導入の際に見られる、教師の「指導観」「児童観」「教材観」である。

	指導観・児童観	教材観
日 本	各教科の授業進度や各教科の授業計画遂行に対して教師が抱えているストレスは大きい。	国語以外の各教科の語彙に対しても対応できる国語辞典の教材としての汎用性に魅力を感じている。
イギリス	学級内の能力差に対して関心が高い。	児童の能力形成に関心が高い。 能力差に対応した教材としての辞書に対する魅力を感じている。

日本の教員は、授業計画や各教科の進行遂行に対して感じているストレスが大きく、児童が自由に辞書を使う事に対し、授業が成立しなくなるのではないかと不安を抱いている¹³⁾。

一方、イギリスの教員は、教室内の能力差についての関心が高く、能力の優劣に関わらず有効な「辞書引き学習」について大きな関心を持っている。日本の教師は、授業を管理しなければならないと考えており、授業における辞書引き学習の意義を、各教科においても積極的に位置づける必要があると感じている。イギリスの教員はその点、大らかに考えているが、最終的には、小学校の英語教育において大きな課題となっている「スペリングの知識技能の習得」において、「辞書引き学習」に大きな期待をしていることが分かる。

(4) 「辞書引き学習法」導入に見られる「語彙教育観」

「④『辞書引き学習』の長期的利点とは何か」における Sian Cafferjey 教諭のインタビューに“root word”という語が登場する。

T6 : In the long term, I'm hoping it will help them to improve their spelling. English spelling is very tricky. Every time you learn a rule, every word you come across after that doesn't abide by the rule. At least this way they're starting to see the connections between words. Because of the way the dictionary is organized as well you start with a root word and expand upon the root word. They're beginning to understand the spelling patterns. (下線は筆者による。)

語彙教育において、イギリスの教師が関心を持つのは、辞書引き学習で辞書を読むことを繰り返すことで、“root word”（語根）に出会うことができるという点からである。英語語彙に対する理解を深め、語彙を拡張するために、語根に注目することは、極めて有効であり、辞典の語彙の配列において、語根が発見しやすいという利点がある。National Curriculum UK に“Glossary for the programmes of study for English (non-statutory)”があり、93-94頁に“root word”が示されている。辞典指導において“root word”に着目することの有用性は、National Curriculum UKを通して教員間で共有されている。

イギリスの教師にとって、辞典に貼り付ける、見つけ出した語彙を書き込む「付箋紙」は、語彙力伸張、拡張の「試薬」であり、イギリスにおける語彙指導における「辞書引き学習」の受け止め方に、イギリスの言語文化的・教育学的特色を垣間見ることができる。

謝辞

本研究は、イギリス・ウースターシャー・キャッ

スルモルトンCE小学校 (Castlemorton CE Primary School) ジャネット・アドセット (Janet Adset) 校長、同校Year 3.4の複式学級担任シヨン・カッファークー (Sian Cafferkey) 教諭、そして日本のN市立S小学校Y教諭の研究協力の元、貴重な研究実践のデータを得ることができた。ここに深く謝意を表したい。

また、この2校で得た研究に関わる情報については、本研究の趣旨を逸脱しない範囲に於いて公開することが許されていることもここに付しておく。

注

- 1) 深谷圭助『辞書引き学習で子どもがみるみる変わる』小学館、2013年、3頁。
- 2) 近年では、中学校英語の指導法としても注目されており、福田稔により、その導入の検討がなされている。福田稔「中学校英語における辞書指導について」『宮崎公立大学人文学部紀要』第24巻 第1号 2017年3月 pp. 185-196。
- 3) 2017年5月20日、21日にNational Library Building, Singaporeで開催されたAsian Festival of Children's Content2017において、招待ワークショップ“Have Fun Learning with Dictionaries: A Hands-ON Workshop by Dr Fukaya”, 及び、招待講演会“Jishobiki: The Japanese Approach to Enhancing Children's Knowledge and Use of Dictionaries.”が行われている。
- 4) K. Fukaya, E. W. K. Lim, N. Kohata, *Promoting Academic Competence in Classrooms: Linking Jishobiki with the 'Teach Less Learn More' Pedagogical Approach in Singapore*. Journal of College of Contemporary Education 7. pp. 25-30, March 2014.
- 5) Stigler, J. W. and Stigler. (1999) *The Teaching Gap: Best Idea from the World's Teachers for Improving Education in the Classroom*, New York: Free Press.
- 6) Stevenson, H. W. & Stiglar, J. W. (1994) *The Learning Gap: Why Our Schools are Failing and What We Can Learn from Japanese and Chinese Education*, New York: Touchstone book.
- 7) 授業研究 (レッスンスタディ) の系譜や現在の動向については、小柳和喜雄が分かりやすく解説している。小柳和喜雄「Lesson Studyの系譜とその動向」小柳、柴田好章『Lesson Study (レッスンスタディ)』教育学選書Ⅱ、第11巻、ミネルヴァ書房、2017年、2-18頁。
- 8) 日本のカリキュラム改善について、以下の研究が、PISA 2012 Results: Creative Problem Solving Students' skills in tackling real-life problems Volume V, P. 127. に引用されている。
Mohammad RezaSarkar Arani, K. Fukaya (2010) *Japanese National Curriculum Standards Reform: Integrated Study and Its Challenges. Globalisation, Ideology and Education Policy Reforms*, Heidelberg, London & New York: Springer.
- 9) 小学館国語辞典編集部編『大辞泉 (上巻)』第2版、小学館、2012年、1597頁。
- 10) 深谷圭助「自ら学ぶ力を育てる国語辞典の指導法」は1998年愛知県教育委員会、愛知県教育文化振興会主催第32回愛知県教育論文個人研究最優秀賞を受賞し、同年、深谷圭助『小学1年生に国語辞典を使えるようにする30の方法』(明治図書、1998年)として、刊行された。
- 11) 「辞書引き学習法」に関する関連書籍には、以下のものがある。
 - ・深谷圭助『7歳から辞書を引いて頭をきたえる』すばる舎、2006年。
 - ・同『7歳から漢字辞典を読む子は学力が伸びる』すばる舎2008年。
 - ・同『なぜ辞書を引かせると子どもは伸びるのか』宝島社、2008年。
 - ・同『自ら学ぶ力をつける深谷式辞書図鑑活用術』小学館、2010年
 - ・同『辞書引き学習で子どもがみるみる変わる』小学館、2013年。
- 12) 日本において「辞書引き学習」の実践を3か年に亘り実践したN市立S小学校Y教諭へのインタビューでは、辞書引き学習で最初に国語文学教材における読み取りに「辞書引き学習」が有効であったこと省察している。これは、日本において、辞書指導の中心が「国語」という教科にあり、国語文学教材読解の文脈で辞書を使用することが前提のようにになっているからと思われる。
- 13) 日本において「辞書引き学習」の実践を3か年に亘り実践したN市立S小学校Y教諭へのインタビューでは、「辞書引き学習」を各教科の指導計画や授業計画を損なわないように位置づけるためにはどうしたらよいのかという問題が最も大きかったと述べている。

受付日 2017年 9月29日

受理日 2017年11月 9日

Castlemorton CE Primary School, Sian Cafferjey 教諭に対するインタビューの逐語記録原文

①「辞書引き学習」を導入して感じたこと

原文
I1 : How do you feel about the Jishobiki? S1 : At the beginning I was skeptical. This isn't going to work, they won't like this but they loved it. The children were really enthusiastic. For them they suddenly thought, "We can use a dictionary and it's interesting." When I was a child there was a booklet called Readers Digest. And in there they have "Increase Your Word Power". And I used to love looking up words in dictionaries finding new words using them and the children didn't have that before. But this has made them want them to find out new words. And the competition has really ... they loved the competition. "Can I get more words than my friend?" "Can I be the first one to a 1000?" "Can I use the words in my own writing?" So from a teacher's point of view it has been fantastic. I wasn't a believer in the beginner but it's a genius thing. I2 : It was a good opportunity. S2 : Brilliant. Your higher achiever children will always take something like that and run with it and think it's brilliant. Children who struggle with English, I didn't think they would like it, because I thought they would feel left out. But because they did it at their pace, they loved it too. And they could do it at their level so everybody joined in which was brilliant It's been fantastic.

②「辞書引き学習」をどのように導入したのか

原文
I3 : I want to know your process of Jishobiki and for March, April, June, July what's the process. S3 : So normally, after your lesson the children had a week where they kept bringing their dictionary and they were doing it everywhere. Every time you turned around a child was doing Jishobiki somewhere in school. Outside at playtimes. They were very motivated. It was a fad then it wanted a little bit so then we said, "Where are we up to? What numbers are we up to? Where is everybody at?" We looked at having a bit of competition in class. Can you get up to a 500? Can you get up to a thousand? Every time it dipped, every time they stopped wanting to do it themselves we gave them an incentive to do it. It does dip doesn't it. If you don't do it every day it dips off, but in my class we do reading in the morning for half an hour. And one of my groups if they've finished their reading book then they can get their dictionaries and what I was finding was that whenever they'd finished a book and they didn't want to start a new book yet they would go and get their dictionaries independently. That would be the automatic "Oh go get my dictionary." I have done one or two lessons where we've used the dictionary we've had challenges. "Can you find a word quickly?" "Can you find a word you don't know?" "Can you find a word that begins with these sequence of letters?" "Can you find a word that has these letters in the word?" So using that to help them to make sure they really are using it. Not just writing numbers. So maybe once a week have a lesson that has a dictionary focus. As part of a spelling lesson or grammar and that's worked really well. I4 : About once a week? S4 : About once a week. Have a specific time but then also there are opportunities for them to use the dictionaries throughout the week. Encouraging them in literacy lessons to have the dictionary on the desk so they are using it. And then saying, "If you look the word up in your dictionary you can add a post it note on it because you've learnt a new word" We encourage them that way. It's worked really well.

③「辞書引き学習」の短期的利点とは何か

原文	
I5 :	What do you think are the short term benefits of Jishobiki?
S5 :	For short term, curiosity about language. The sense, for the children, of empowerment. They don't need to ask me about words. They can find out by themselves. They know if they get their dictionary and look up a word they can then say I know that word. Instead of saying "Ms Caffejey, "How do you spell?" "What does this word mean?" They go straight to the dictionary and use it first before asking me. Which is brilliant because they are independent. and know that they can learn new words. In English we use very few of the thousands of words that we have available. I seem to remember that for most people its 1000 words that we use every day. There are so many more ways that we can speak and more vocabulary that we can use. It just encourages them to expand what they say. And it's quite interesting when you hear them in the playground sometimes. They'll suddenly come out with a new word. What does that mean? They race back in to come in to find that word.

④「辞書引き学習」の長期的利点とは何か

原文	
I6 :	How about the long term benefits?
S6 :	In the long term, I'm hoping it will help them to improve their spelling. English spelling is very tricky. Every time you learn a rule, every word you come across after that doesn't abide by the rule. At least this way they're starting to see the connections between words. Because of the way the dictionary is organized as well you start with a root word and expand upon the root word. They're beginning to understand the spelling patterns. I think they're making better choices and better guesses when they don't know how to spell a word. They're using what they found out and more to help them. The younger children in the class are definitely seeing more of that because they were younger when they started. I think year I should see a bigger improvement in their spelling, hopefully. We just need to keep going with it.
I7 :	Usually how do you train spelling in this school?
S7 :	We teach a spelling rule. Maybe we might teach one spelling rule or two spelling rules in a week. Then we've always sent home ten spellings, ten words to learn. They would learn those words have a test and then forget the spellings. They don't retain them so it's very difficult because parents say "My child can spell. My child gets ten out of ten." They don't use the words. They just learn words. I don't know about you but when I'm writing If I come across a word I think I can't spell sometimes you change it to a different word because it's easier than going and getting a dictionary. But I think the children are now thinking "I'm not sure about that word I'll look it up." Hopefully they'll be more adventurous in our spelling and our choice of language. Which is good.

⑤「辞書引き学習法」導入にみられる児童観

原文	
S8 :	Do you remember C? Tall boy long hair He has very poor English. Very very poor. Can barely write. And he was looking through the dictionary and saying, "Oh I know that word I know that word" He then started to count and said, "I know 50 words!" And the next day he'd come and say "I thought I only knew 50 words, now I know 70 words" And he hadn't realized how good his vocabulary actually is because although he can't necessarily spell them all right, those words, he knows the words. And when he reads it he can tell he knows the words. For me, somebody like C, It's a huge boost to him to realize how good he is.
S9 :	He will never match where he needs to be at the end of primary school. He will never make that much progress, but he's better than he thinks he is. He's always thought he's not good at writing not good at reading. He's better than he thinks he is. Some children have that I can't do it I can't do it so don't even try feel.

And for C that was very much what C was like, but now he has a go and he'll have a go at using the dictionary, being independent. Because before he would rely on my TA, my classroom assistant, to do it for him, to write it down. He would then copy, but now he's much better at trying.

I would say he was my lowest ability child and my least able. But then you have children like M who is also year 5 who is very able. Who is writing at a very high level. For him the good thing was realizing the words he didn't understand, the words he didn't know.

Actually he wasn't worried by that. It was just an opportunity for him to learn those words. So it worked at both ends which I really didn't think it would work. Which is why you're a professor and I'm not.

I8 : So you mean for him this Jishobiki was very effective?

S9 : Yes for both ends. For the poor ones it's about improving their confidence and telling them they do know more.

For the higher ability it's stretching them to say. They want to come in with bigger dictionaries because we have school dictionaries which have a few words comparatively and so he then wanted to come in with a big student's dictionary. And for M that's fine because actually he can learn very long words. He likes the challenge. So it worked for both ends, which is great.

S10 : He's very very good episode. I think this approach Jishobiki is very effective in every development stage. C is not so higher level but he's very interested in the Jishobiki and expands their ability vocabulary and confidence.

Parents have been surprised as well. Lots of parents come in and say, "Oh what's this? Another thing we've got to do at home." You say, "Well your children are interested" and they come back and go, "I can't believe they sat with the dictionary for an hour and a half this evening and just gone through a dictionary" because children nowadays have so many things.

Whereas in the 70's we had 3 TV channels and that was it. No DVDs and no videos. There wasn't a lot to do other than read.

Nowadays they have so many things that they could do. Why would you sit with a dictionary, but they do and they love it they absolutely love it.

And they love their little bags that Mrs. J mum made. Very cute

J1 : He also studied Spanish

S11 : That wouldn't surprise me.

J2 : He applied this method to Spanish. He's clever.

S12 : Brilliant. He makes those connections with other things where he can apply it. He will do it science, everything, without teacher help really.

I9 : He's clever.

S13 : Yes very clever. Exceptional.

I10 : He's year 5 also?

S14 : Year 5.

I11 : I think he develop his study skills by himself

S15 : Yeah. I think that's the thing for M. He will take that now on now as he moves on towards high school. His parents are very academic as well. So I think he will be encouraged to keep going with it. Yeah he does make those links very easily. Wise beyond his years,

Abstract

The aim of this study is as follows:

What kind of outcomes and challenges will be obtained if the teacher introduces “Jishobiki”, a method of teaching Japanese dictionaries to make children understand vocabulary and expand vocabulary?

It is the purpose of this research to clarify through analyzing cases of introduction in British elementary schools.

This study clarified the difference between the teaching view of teachers in the UK (view of teaching materials, view of children) and the teaching perspective of Japanese teachers.

First of all, it is about teaching Japanese teachers.

- ① The guidance of teachers in Japan is bound by the leadership plan of each subject, the leading position in the class,
- ② Therefore, what you expect from the “dictionary subtraction learning method” is to demonstrate the subjectivity of the child.

On the other hand, it is about teaching English teachers.

- ① The teaching in the class is being developed based on the child’s ability view, then,
- ② The teaching of spelling guidance is considered as the most difficult problem. Especially in English lesson of Primary school. As a teaching method for overcoming the problem, it was revealed that UK teachers greatly hope for “Jishobiki”.